

はじめの一步から広がる世界

みのゝれとの 出会いに感謝

なつかしの名画座企画
実行委員の一員としても活躍している原田さんは、少女の頃から映画や読書が大好きで沢山の映画を鑑賞し、沢山の本を読んでいたそう。だ。「なつかしの名画座」企画は、みのゝれの風のホールに昔懐かしい映画館を再現し、昭和30年代〜40年代頃の名作映画を毎年、わたり上映している。上映終了後は映画サロンを開き、見に来てくれたお客様たちとお茶とお菓子を囲んで映画談義に花を咲かせる。とても楽しい一時を過ごすことが出来る」と好評だ。「映画といえば、なんといつても石原裕次郎さん。一目で大ファンになって、出演された全作品のほとんどを見ました。」と当時を振り返る。読書も大好きな原田さんは、「自分を主人公に置き換え

たり、居ながらにして色々な国へ旅行気分を味わうことができ、見聞を広め話題も豊富になるために役立つている。」と話す。映画や読書が大好きな原田さんのもうひとつの趣味は、花を育てること。ご主人と一緒にクリスマスローズやバラを沢山育てていて、原田さんのご自宅のお庭は、土作りから一つ一つ素敵にコーディネートされている。原田さんは「子どもたちが巣立ったとき、一人で出来る趣味と、二人（夫婦）で出来る趣味と、仲間で作れる趣味を見つけるといいと思う。主婦が穏やかに過ごせたら家庭が円満だと思えう。」と話す。また、「夢は、主人と本場イギリスのイングリッシュガーデンを見に行くこと」と話してくれた。原田さんとみのゝれとの出会いは、開館の時。支援隊の募集があり、一人で飛び込んで来た。「いつも劇場などに行くのと、もぎりの

方や『いらっしやいませ』と言ってくれる人たちをみて、『自分もやってみたい。』とずっと思っていたので、みのゝれと出会えてよかった」と話す。また、「ちよつと無理とか思わないうで一步踏み出してみたらいいと思う。未知の世界へ飛び込むことは、大変な事も多いけれど、無限の広がりをもっている。毎日を楽しく送ることが出来る秘訣。」と付け加えた。原田さんが、活躍する「なつかしの名画座」企画は、奇数月に一度実施され、これまで6作品が上映されている。本年度も、5月の「東京物語」をかわきりに合計6本の名作映画の上映が予定されている。ぜひ、懐かしい気持ちにさせてくれる名作映画の数々に逢いにみのゝれへ来てみてはいかがでしょう。

(藤田佐知子)



「たくさんの趣味のおかげで、楽しい毎日を過ごしています。」と語る原田さん

みのゝれ支援隊公演スタッフ
「なつかしの名画座」企画実行委員会

原田 誠子さん

みのゝれと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.36

若葉の眩しい季節がやってきた。萌黄色に輝く若葉の隙間から柔らかな光とマイナスイオンのシャワーが降り注ぐ。また、ノバラやキモツコウバラが咲き乱れその美しさが私たちの目を楽しませてくれる。また、なつかしの名画座企画実行委員、みのゝれ支援隊公演スタッフ等、パワー全開でみのゝれを支える羽刈地区にお住まいの原田誠子さんを取材する。